

A Window Open to the World

椋山女学園大学国際交流センター一報

2024.3
第15号

韓国の協定校を訪問して

国際交流センター長 笠原 正秀



2023年9月、夏休みも終盤の時期に、韓国の既協定校3校（培材大学校・順天郷大学校・淑明女子大学校）と新規協定校2校（ソウル女子大学校・木浦国立大学校）を訪問しました。長年にわたり協定関係にある大学とは双方の関係性強化を目的に、新たな協定校とは本学のことを知っていただき、学生さんたちを安心して派遣していただけるよう、その信頼関係構築の第一歩として、国際交流部門の方々と意見交換を行ってきました。学生のみならず、本学の沿革や留学生の受入態勢、カリキュラムなどを紹介する機会を持ちました。各大学とも日本語を専攻する学生さんたちを中心に、20名～30名ほどが集まってくれました。質疑応答では、たくさんの質問が寄せられました。とりわけ、本学の受入交換留学生向けの奨学金制度と、寮がきれいで個室であることが魅力的に映ったようです。

今回、5大学を訪問した際、すべての大学から共通して強く提案をいただいたのが「ダブルディグリー・プログラム」でした。多くの大学は「ツー・プラス・ツー」（所属大学で2年間、留学先大学で2年間単位修得することで、両大学から学位が授与される形態）を謳っていましたが、なかには「ワン・プラス・スリー」という提案もありました。韓国の留学生誘致政策「Study Korea 300k Project」もあってか、こうした学位取得型の留学プログラムや、韓国への留学希望者がいるのであれば、協定書に定められた人数に縛られることなく、学生を派遣してほしいという要望までいただきました。また、本学と協定を締結している大学の多くが、協定校からの留学生だけで数百名、個人で訪韓している学生を含めると千名を超えるような大学もあり、その規模のちがいに愕然としました。ただ、逆に受入留学生の少ない本学の良いところもあり、今回訪問したある大学からは、「椋山に派遣した学生たちの『留学評価』が、他協定校に比べ群を抜いて高い！」というお話をうかがいました。われわれ国際交流に携わるスタッフ全員が常日頃心掛けている「留学生を大切に育てる」という姿勢に対する評価のようで、たいへんうれしく思いました。

最後に、韓国内の大学事情と留学生の獲得について触れておきたいと思います。韓国の少子化は深刻な状況にあり、



KOSIS（2023）によれば2022年度の出生率は0.78でした（ちなみに日本は1.26 [2022年度]、厚生労働省、2023）。こうした状況もあり、韓国の各大学は海外、特にアジア圏からの留学生獲得に真剣に取り組んでいるようでした。こうした状況は、2023年3月に訪問した台湾も同様でした。日本も18歳人口の減少は深刻です。しかし、日本の大学は韓国や台湾とは異なり留学生の獲得や受入を正面から向き合っているようには思えません。このままでは日本の大学も「ガラパゴス化」していくのではないかと、という懸念を抱きました。ただ、ダブルディグリーのようなプログラムを実施するには、学位を認定するのに十分な数の授業と専門的な内容の授業を「英語」でも提供することが求められます。こうした英語で行われる授業については、本学の「国際化ビジョン」でも謳っていますが、現在は国際コミュニケーション学部（2024年度からは外国語学部）に何科目かある程度で、大学のカリキュラムとして形になっていかないのが悩ましいところです。若い学生のみならず、学ぶための道具として外国語の力を身につけ、自分の専門とする分野を学ぶために海外に羽ばたいてほしいと願っています。

2023年度の受入交換留学生の活動を紹介します。

受入交換留学生

本学の受入交換留学生は2022年度から更に増え、前期に6名（台湾2名、韓国1名、タイ2名、マレーシア1名）、後期は10名（中国1名、台湾2名、韓国5名、タイ1名、オーストラリア1名）を受け入れました。交換留学生の中には「初めて日本に来た」という学生もあり、日本語や日本での生活に徐々に慣れながら本学での勉強に励んでいます。



授業

受入交換留学生は、月曜日から金曜日まで、毎日、日本語の授業（文法、語彙・表現、読解、聴解、会話）を受講します。日本語の授業はIntermediateとPre-advancedの2クラスあり、年度の始めのプレースメントテストで受入交換留学生の受講するクラスが決まります。日本語の習熟度により、学部で開講されている授業を履修することもでき、受入交換留学生は書写・書道、ビジネス英語、ジェンダー論などの授業を履修しました。



学外研修

前期に伊勢・鳥羽、後期に郡上八幡で学外研修を実施しました。伊勢・鳥羽の研修では、伊勢神宮に関連する神話から日本の成り立ちを学び、江戸風鈴の絵付け体験を通して日本の文化・風情を肌で感じました。郡上八幡の研修では、紅葉の城下町を歩き、郡上踊りや食品サンプル作りを体験しました。研修には日本人学生も同行し、ペアワークを通じて交流を深めました。



インターンシップ

受入交換留学生は、夏休みと春休みにインターンシップに参加しました。ホテルでのフロント業務、コンサートホールでの運営のサポート、企業での調査研究・職場体験などを通じて、職業観を養い、日本の企業風土を知り、機会を持ちました。

ホームビジット

ホームビジットでは、受入交換留学生はホストファミリー宅で1日を過ごし、日本の家庭を体験しました。一緒に料理をしたり、子供やペットと遊んだり、パーティーにも参加しました。ホームビジットの後も、ホストファミリーとの交流が続いています。

2023年度の主な出来事をご紹介します。

交換・派遣留学の新規協定締結

2023年4月、淑明女子大学校（韓国）と交換留学の協定を締結しました。淑明女子大学校はソウルにある、私立の名門の女子大学です。また、2023年7月にデイトン大学（アメリカ）、9月にサンディエゴ州立大学（アメリカ）と派遣留学の協定を締結しました。両大学とも本学の国際コミュニケーション学部の中期留学を実施していた大学で、本学とは縁の深い大学です。これで、本学の協定校は16大学になりました。更に協定校を増やすべく、世界各国の大学とコンタクトをとっています。



淑明女子大学校



デイトン大学



サンディエゴ州立大学

留学生を派遣しました

2023年度、交換留学・派遣留学で16名の学生を協定校に派遣しました。新型コロナ以降、派遣できずにいた上海師範大学、亜洲大学、タスマニア大学、ビクトリア大学ウェリントンについては今年度からついに派遣再開が叶いました。半年から約1年間、留学先で多様な文化や価値観に触れ、大きく成長して帰国することを期待しています。

大学名	前期	後期
ケベック大学モントリオール校（カナダ）		4
上海師範大学（中国）		1
亜洲大学（台湾）	2	
順天郷大学校（韓国）	1	1
培材大学校（韓国）	2	
タスマニア大学（オーストラリア）	2	
サザンクロス大学（オーストラリア）	1	
ビクトリア大学ウェリントン（ニュージーランド）	2	

4年ぶりのサマープログラム実施

新型コロナ以降初の実施となった8月のサマープログラムには、ニューヨーク市立大学リーマン校から1名、亜洲大学から1名が参加しました。15日間のプログラムでは、初級の日本語を学び、和食や茶道、琴などの日本文化に触れ、犬山や有松、京都で学外研修を行いました。



タイ2大学からの表敬訪問

2023年6月、スィーパトゥム大学、モンクット王工科大学ラートクラバン校の教員8名が、本学を表敬訪問しました。スィーパトゥム大学とは交換留学や生活環境デザイン学科の海外研修で交流があり、モンクット王工科大学ラートクラバン校とも今後の



更なる国際交流について意見交換をしました。

椋山女学園高等学校での留学説明会



2024年1月、椋山女学園高等学校で大学の交換留学に関する説明会を開催しました。大学での留学の準備は高校生のうちから始めることが大切であることを説明し、中でも英



語圏に留学するにはIELTS・TOEFLの対策が必要であることを強調しました。高等学校で説明会を開催するのは初めてでしたが、説明会には80名超の生徒が参加し、留学について積極的に考えてもらう良い機会となりました。

留学生レポート

神谷 和花（国際コミュニケーション学部 国際言語コミュニケーション学科3年）

私は、2022年9月から2023年5月の8ヶ月間、カナダのケベック大学モントリオール校に交換留学しました。モントリオールはフランス・イギリスの植民地であったことから、今でもヨーロッパを感じさせる街並みの都市です。そういった経緯もあり、モントリオールではフランス語と英語を公用語としており、英仏のバイリンガルの方がたくさんいました。英仏どちらの言語も話したり聞いたりする機会が多く、とても刺激的な毎日でした。ケベック大学では言語を学ぶだけでなく、カナダの歴史など専門的な知識も学びました。最初は緊張してなかなか行動できませんでしたが、毎日少しずつ目標を立て、自発的に行動を起こすことでたくさん友人もでき、発言や発表することへの抵抗がなくなり、今では英語、日本語どちらの言語でも楽しく胸を張って話すことができるようになりました。カナダはさまざまな国籍の人々が共存する国であり、私の身近な人もみなそれぞれ違った国籍であったり文化的背景を持っていました。そうした人々と共に寮生活をしていたため、適応力が身につく、相手のことを理解し、行動することの大切さに気づくことができました。



この留学は様々な面で私を成長させてくれました。この学びを生かし、今後もさまざまなことに挑戦していきたいと思います。

スタディメイト・留学生サポーターズ

スタディメイトは、交換留学生の学修をサポートするほか、お互いの国の言葉や文化を教えあい、交換留学生の学修面の支えになります。留学生サポーターズは、学外研修で交換留学生をフォローしたり、七夕、クリスマス会、運動会などのイベントを企画し、交換留学生と交流を深めます。



新学部・新学科

2024年4月、本学に新たな学部と学科が誕生します。国際コミュニケーション学部が外国語学部、文化情報学部が情報社会学部、人間関係学部人間関係学科が人間関係学部人間共生学科に改組します。いずれの改組も、時代のニーズにあわせ、本学の教育理念を具現化したものです。中でも外国語学部は、希望者全員留学を掲げ、多様な留学プログラムを実施する予定です。

編集 後記

国際交流に関する業務は、2022年度までは学生課の中で行っていましたが、2023年4月に国際交流センター事務室が発足し、これを担うことになりました。それに伴い、新たに事務室も整備されました。2024年4月には留学に力を入れる外国語学部がスタートすることもあり、本学の国際交流は大きな転換点にあります。様々な要因で学生の留学熱が下がっているとも言われますが、新たな観点や手法を取り入れ回復を図りたいと思います。



ホームページ



Instagram